

令和6年度 コミュニティ・スクール春日市立春日西中学校 学校経営要綱

1 学校経営の基盤

(1) 公教育としての学校

関係法規に則り、関係教育施策(春日市教育大綱、春日市教育振興基本計画)に基づく公教育を推進する。

(2) 現代社会の要請

AIの発展と自動化の進展により、将来の新しい職業に対応するために、子どもたちは創造力と協働能力を兼ね備えた自律的な人間へと成長する必要がある

(3) 家庭・地域・学校の3者が連携した「地域と共にある学校」

子どもたちの成長は、学校だけでなく地域社会との関わりによっても育まれる。多様な体験と人々との絆が重要で、家庭、学校、地域が連携し、社会全体での教育の実現が子どもたちの豊かな成長を保障する。

2 本校の教育理念

本校の教育の理念を学校・地域・家庭が共有するため、本校の教育を総称して「星雲教育」と呼ぶ。

～星雲教育～

○生徒を宇宙の無数の星々の塊である星雲に見立て、生徒一人一人が光り輝き、限りない能力や可能性を伸ばす教育。

○郷土を愛し、その歴史を訪ねるとともに新しい文化の担い手として、地域と共に深化発展する教育。

※校章のデザインは、春日市にある須玖遺跡から発掘された「星雲鏡」という古代の銅鏡からの由来。

星雲教室、星雲祭、星雲ホール、応援歌「星雲」など、様々な教育活動等の名称に「星雲」の文字を使用していく。

3 本校のミッション

子どもと地域の未来をつくる学校

4 学校の教育目標及び校訓

郷土を愛し、主体的・自律的に未来を切り拓いていく生徒の育成

校訓 「開拓」【体】 「連帯」【徳】 「自省」【知】

5 目指す学校像

【体】 生徒に活躍の場を提供する学校

【徳】 家庭や地域と連携する学校

【知】 探究心を刺激する学校

6 目指す生徒像

- 【体】 自己管理できる生徒
- 【徳】 誰とでも協働できる生徒
- 【知】 探究心旺盛な生徒

7 目指す教師像

- 【体】 生徒に任せ、生徒を支える教師
- 【徳】 多様性と寛容性を尊重する教師
- 【知】 生徒の学びを支援する教師

8 教育課題と経営課題

教育課題	経営課題
<ul style="list-style-type: none">○ 自己指導能力の育成○ 相手意識・他者意識の醸成○ メタ認知の育成	<ul style="list-style-type: none">○ カウンセリングマインドやコーチングスキルの向上○ 持続可能なコミュニティ・スクールの推進○ 個別最適学び(多様な選択肢と自己決定、振り返り活動の支援)の推進

9 重点目標と経営の重点

重点目標(問い続ける生徒)	経営の重点(問い続ける教師)
<ul style="list-style-type: none">・どうやれば、意欲や向上心を持ってやってみようとしたら、自分を信じて挑戦したりできるようになるのだろうか?(主体的・自律的に学ぶ生徒)・どうやれば、私たちには、学校や地域、社会に貢献・参画できるだろうか?(学校や地域、社会に貢献・参画する生徒)	<ul style="list-style-type: none">・学習への意欲や自己実現への欲求を内から湧き上がらせ、生徒の学びに対する情熱を育むには、どうすればいいのだろうか?(学びに向かう力の育成)・持続可能なコミュニティ・スクールの実現のために、何ができるだろうか?

10 評価指標

重点目標の評価指標	経営の重点の評価指標
ScTN 質問紙の「学びに向かう力」のポイント+1.0	学校評価の「自律性の育成」の5・4の割合 70%以上
学校評価の「地域に関わる項目」の5・4の割合 60%以上	CS 進捗状況評価の「共育文化醸成の進捗状況」「開かれた教育活動等の進捗状況」の総合ポイント 3.4 以上

11 重点目標達成のための指導の重点(教育課題に対しての具体的な方策)

- (1) 個別最適な学びと探究的な学びの推進
 - ア 教材選択の自由度を増やし、生徒の興味や能力に応じた学習を促進する。
 - イ ICT を用いた個別学習プログラムを導入し、自律学習能力の向上を図る。
- (2) 生徒主導の活動と教師による支援のバランス
 - ア 生徒が自主的に計画・実行するプロジェクトを支援し、リーダーシップの育成を図る。
 - イ 生徒会活動や学校行事の企画に生徒を積極的に関与させ、実践的なスキルを育成する。

- (3) 心理的安全性を高める学級経営と道徳教育
 - ア 教室での相互尊重と支援の文化を育むための道徳教育や学級活動の充実を図る。
 - イ 道徳教育を深化させ、共感力や倫理観を高める内容を取り入れる。
- (4) 地域社会との連携による教育活動
 - ア 地域のイベントやプロジェクトに生徒が参加し、地域への貢献と自己の成長を経験する。
 - イ 地域住民や専門家を学校に招き、実社会の知識や技能を生徒に提供する。
- (5) 学びと自己評価の一体的推進
 - ア 自らの学習方法や進捗を振り返る時間を確保し、自己管理能力を養う。
 - イ 授業内外での体験や学習成果を生徒が共有し、相互の学びを深める。

12 重点目標達成のための指導の重点(教育課題に対しての具体的な方策)

- (1) 教育プログラムの多様化と個別化の推進
 - ア 個別学習計画の策定と実施を通じて、生徒一人ひとりのニーズに応える。
 - イ 教職員が生徒の学習進度を定期的にチェックし、適切なアドバイスを提供する。
- (2) ICTを活用した教育環境の整備
 - ア 最新のICTツールや教育ソフトウェアの導入により、効率的な学習環境を構築する。
 - イ 教職員と生徒に対する情報セキュリティおよびデジタルリテラシー研修を強化する。
- (3) 生徒のキャリア発展と地域との連携
 - ア 地域社会に根ざした学習プログラムを開発し、生徒の社会貢献・参画を促す。
 - イ 地域企業や団体と連携したキャリア教育やワークショップを提供する。
- (4) 学校と地域社会との連携強化
 - ア 地域社会と協力して、学校の教育活動やイベントを共同で企画・運営する。
 - イ 生徒と地域住民が協働できるプロジェクトを推進する。
- (5) 教職員の専門性向上と人材育成
 - ア 「福岡県教員育成指標」に則り、主体的・自律的に研修に参加し、教職員としての資質向上に努める。
 - イ 若手教員向けの教師力向上プログラムを実施し、教育現場での成長と自信を支援する。